

小さな成功経験から次のステップへ 大学生のうちにはしかできないことを・・・「絶対留学する！」

私は、高校の修学旅行で初の海外渡航を経験しました。自分の知らない世界を知り、新しい自分へと一歩踏み出す必要性を感じました。そこで冒頭の決意を固め、香川大学農学部に入學しました。

入學してすぐ、SUIJI-SLP (四国、インドネシアの計6大学からなるプログラムで、両国の農村地域に1カ月間滞在し、その地域課題解決のために活動を行うもの)に参加しました。当初は、語学能力不足や考えの甘さから、先輩に対する劣等感を感じることもありましたが、継続するうちに語学能力や経験を培うことができ、自身の成長を確実に感じました。ただ、プログラムを通じて海外に行くと、共に活動する日本人を頼ってしまう自分もどかしく、“たった一人で”留学することが必要だと考えるようになりました。

SUIJI-SLPでの経験から現地のゴミ問題に興味を持ち、1年間一人で留学し、問題解決に向けて活動することを目指しました。トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラムの地域人材コースに合格したことで資金面の支援を受けながら、大学3年の8月から1年間、再びインドネシアに留学しました。

活動は、現地大学での研究や交流を通じ、現地語(インドネシア語)を独学で学ぶことから始めました。生活に慣れ、言語も話せるようになり、現地 NGO で2カ月間のインターンシップに参加しました。そこでは、現地に適したごみ処理技術や有機農業を学び、ごみゼロの村の実現に向けて、発展型ごみ銀行事業を開始しました。結果的に、200世帯1,000人からなる村を巻き込み、現地県知事に表彰される大きな成果を得られました。

留学中は危険や困難も多くありましたが、たった一人でやり抜いた経験は大きな自信となりました。

帰国後から現在まで、就職活動やボランティア活動などを行ってきましたが、留学経験から得た自信や考え方から、新たな発見が多くありました。大学内外で責任のある仕事を任せていただける機会があり、最近では、食の安全の観点から外国人の生活を支えることを目的とした“グローバル食文化協会”という集団を立ち上げ、理事を務めております。

大学生のうちにはしかできないことは様々ありますが、どれに取り組むかについて優劣はないと考えています。やりたいことに全力を注いでやり抜い

てみる。それこそが最も大切なことではないでしょうか？(私にとって、それは留学でした。)

全力でやったことから得られた小さな体験が、次の大きな挑戦と成功につながると信じ、今後も突き進んでいきます。

農学部4年 請川雄哉



左から2番目(請川)、活動した村の村長さん(右から2番目)家族と

「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」は、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度。2020年までに約1万人の高校生、大学生を派遣留学生として送り出す計画です。派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成されます。帰国後は海外体験の魅力を伝えるエヴァンジェリスト(伝道師)として日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待されています。



ごみ銀行活動記念写真 ごみ銀行導入のきっかけとなったプレゼンテーションを終えて



知事表彰式



日本語教育の子供たちと 村中で人気者になりました!



観光地の海でBBO

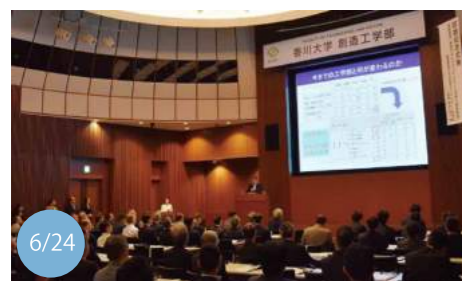


活動以外にも旅行などを通じて文化、宗教にふれることができました(世界遺産ポロブール遺跡で)



観光名所の山頂から眺めた夕日
たった一人で危険や困難も乗り越えてきた留学は人生の糧になると信じています!

EVENT PHOTO



6/24

創造工学部設置記念式典・入試特別説明会

設置記念式典は県内外の政産学官関係者を中心に約190名のご列席を賜り挙行。長谷川修一創造工学部長から学部の説明と祝電披露が行われたあと、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の奥出直人教授から「創造力をビジネスにデザイン思考と事業戦略」と題して基調講演が行われました。



6/24

林文部科学大臣 創造工学部林町キャンパス視察

大臣は3D防災教育訓練シミュレーター、VR自動車運転シミュレーター、自然エネルギーを利用した新型人工魚礁等を視察。各研究成果の社会的貢献度やこれまで香川大学関係者の受賞した科学技術に関する文部科学大臣表彰実績等を高く評価され、今後に対する期待を述べられました。



7/6

情報通信交流館(とびあかかわ)における交流拠点事業の実施に関する覚書を締結

香川大学と情報通信交流館との、さらなる連携と活動の継続・強化を目指し、交流拠点事業の実施に関する覚書を締結。締結式のあと、創造工学部開設記念連続セミナーとして、大場教授と井藤教授のデザインに関する講演が2週にわたり行われました。(写真は講演後、学長と学生も参加して行われた質疑応答)



7/9

医学部 臨床心理学科開設記念式典

県内外の行政、教育及び医療関係者を中心に約120名のご列席を賜り挙行。寛善行学長、上田夏生医学部長の挨拶のあと、来賓を代表して矢木澤崇文部科学省専門教育課専門官、吉田典子香川県知事代理より、医学部臨床心理学科への期待と激励を込めたご祝辞をいただきました。



7/10

香川大学学生表彰(学長表彰式)

医学部サークルIFMSAK(イフムサク)で取り組んでいる「かがわぬいぐるみ病院」が表彰を受けました。表彰式では、学長より表彰盾が授与され、表彰式後の懇談では、学生が活動の目的や報告を述べ、学長からはこのプロジェクトを後輩へ受け継いでほしい旨の激励の言葉が贈られました。



7/10

バリアフリー支援室講習会「ステップアップ手話講座」

香川県聴覚障害者福祉センター主任の藤井真作憲氏を講師として招き、基本的な手話のしくみや日常生活等について、ペアワークも取り入れ、分かりやすく指導いただきました。アンケートでは「手話の世界は温かくて、心で対話するということを感じることができた」などの声が寄せられました。